第2章 親子関係と視の影響

表IV-2-3 子どもの「家庭生活への満足度」に影響を及ぼす要因

<table>
<thead>
<tr>
<th>影響要因</th>
<th>小学生男子</th>
<th>小学生女子</th>
<th>中学生男子</th>
<th>中学生女子</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>父親との会話の頻度（A-Q12）</td>
<td>0.215 **</td>
<td>0.075</td>
<td>0.18 **</td>
<td>0.15</td>
</tr>
<tr>
<td>父親の理解度（A-Q13）</td>
<td>0.162 *</td>
<td>0.106</td>
<td>0.158 *</td>
<td>0.119</td>
</tr>
<tr>
<td>父親との共同行動の数（A-Q14）</td>
<td>-0.074</td>
<td>0.153</td>
<td>0.129</td>
<td>0.189 *</td>
</tr>
<tr>
<td>母親との会話の頻度（A-Q15）</td>
<td>0.181 *</td>
<td>0.234 ***</td>
<td>0.089</td>
<td>0.154 *</td>
</tr>
<tr>
<td>母親の理解度（A-Q16）</td>
<td>0.041</td>
<td>0.151 *</td>
<td>0.294 ***</td>
<td>0.232 **</td>
</tr>
<tr>
<td>母親との共同行動の数（A-Q17）</td>
<td>0.168 *</td>
<td>0.056</td>
<td>-0.034</td>
<td>-0.034</td>
</tr>
<tr>
<td>決定係数</td>
<td>0.234</td>
<td>0.287</td>
<td>0.358</td>
<td>0.311</td>
</tr>
</tbody>
</table>

（注）*の数は影響の強さを示す。

***は非常に強い影響を示す（統計的検定にて0.1%水準で有意）。

**は強い影響を示す（統計的検定にて1%水準で有意）。

*は影響があることを示す（統計的検定にて5%水準で有意）。

3 子どもに対する理解度

(1) 子どもに対する理解度と子どもとの接触

本調査では、子どもに「親の理解度」をまず示されるとともに、親には「子どもに対する理解度」（調査票B №3）を示す能力を示す。「子どもの気持ちをよく分かっている」という親の自己評価である。第2節で述べたように、今回の親身性の理解度は、前回調査と比較すると全体的に上昇している（図3-2-5参照）。親と親が比較すると、親の理解度に関する自己評価が高いが（図3-2-6参照）、これは前節の子ども親に対する評価と一致する。さらに、小学生よりも中学生の親の方が子どもに対する理解度が低い傾向があるが、これも子どもの親評価と一致する。なお、子どもの性格による相違は出ていない。

昨今、「理解できない子ども」がふえるおも言われるが、それでなければ、親は「子どもの気持ちが分かること」言い切れるのだろうか。親の自己評価の背後にあるものを検討したい。その一つは、子どもとの接触量ではないかと推察される。日常的な接点の多さとその質が、「分かる」という自信につながるのではないだろうか。具体的には、「子どもに対する理解度」と「親子の共同行動（調査票B №1」「親子の接触時間（調査票B №2）」との関係をみた。なお、「子どもに対する理解度」に関しては、「全然分からない」の比率が非常に低いので、子どもの場合と同様に、「あまり分からない」と「全然分からない」をひとまとめにして、高理解度群・中理解度群・低理解度群の3群に分けて分析した。また、「親子の共同行動」についても、子どもの場合と同様に共同行動の数を加算して、「共同行動の数」という変数を作成した。

全体としては、親の親も親自も自己評価が高いほど、親子の共同行動の数や平日日の接触時間が多いという結果であった。共同行動の数の平均値は、親子については高理解度群6.82、中理解度群5.49、低理解度群4.16であり、母親については高理解度群7.58、中理解度群6.79、低理解度群5.05という結果で
あった。理解度別にみた一日の接触時間の分布は図IV−2−3の通りで、父親、母親とも高理解群の方が接触時間が長い傾向がある。こうした接触の量的な多さが、「気持ちが分かる」という認識に繋がっているのではないか。

共同行動の中身は、子どもの性別や年齢によって異なるので、分けて分析した（表IV−2−4）。父親の場合は、「話をする」が理解度に対する自己評価と関連するようだが、母親は「買い物に行く」（小学生に対して）、「音楽を聞く」「ガラス洗いや風呂掃除などをする」（中学生に対して）などの行動が関係しているようだ。

共同行動と理解度の関係性を子どもの結果（表IV−2−3）と比較すると、幾つかの興味深いことがわかる。たとえば、中学生女子と母親の関係で、子どもの結果では「話をする」と「気持ちを分かること」の関連性がみられないのに対して、母親の結果にはみられるということである。このことはつまり、母親が話をしているから分かっていると過信している可能性を示している。また全般に、親の結果では、子どもの結果ほど、共同行動と理解度との関係性がみられない。子どもはこうした日常的共同行動から親の理解を感じているのに対して、親はこうした行動をルーティン・ワークとして軽視しているのかもしれない。

図IV−2−3 子どもに対する理解度（親の自己評価）別 親子の接触時間

＜父親の理解度＞

<table>
<thead>
<tr>
<th>高理解群  n = 90</th>
<th>中理解群  n = 220</th>
<th>低理解群  n = 169</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>2.0</td>
<td>1.8</td>
<td>0.6</td>
</tr>
<tr>
<td>6.0</td>
<td>5.0</td>
<td>4.0</td>
</tr>
<tr>
<td>3.0</td>
<td>2.0</td>
<td>1.0</td>
</tr>
<tr>
<td>1.0</td>
<td>0.9</td>
<td>0.8</td>
</tr>
<tr>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
</tr>
</tbody>
</table>

＜母親の理解度＞

<table>
<thead>
<tr>
<th>高理解群  n = 91</th>
<th>中理解群  n = 398</th>
<th>低理解群  n = 81</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>3.0</td>
<td>2.8</td>
<td>2.6</td>
</tr>
<tr>
<td>5.0</td>
<td>5.0</td>
<td>5.0</td>
</tr>
<tr>
<td>4.0</td>
<td>4.0</td>
<td>4.0</td>
</tr>
<tr>
<td>3.0</td>
<td>3.0</td>
<td>3.0</td>
</tr>
<tr>
<td>2.0</td>
<td>2.0</td>
<td>2.0</td>
</tr>
<tr>
<td>1.0</td>
<td>1.0</td>
<td>1.0</td>
</tr>
<tr>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
</tr>
</tbody>
</table>

（注）理解度の分類は、親の自己評価によるものである。
第2章 親子関係と親の影響力

表12-2-4「子どもに対する理解度」と「親子の共同行動」との関係

<table>
<thead>
<tr>
<th>共同行動</th>
<th>親</th>
<th>父親</th>
<th>母親</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>共同行動の数</td>
<td>**</td>
<td>*</td>
<td>*</td>
</tr>
<tr>
<td>接触時間</td>
<td>***</td>
<td>*</td>
<td>*</td>
</tr>
<tr>
<td>話をする</td>
<td>***</td>
<td>**</td>
<td>**</td>
</tr>
<tr>
<td>食事をする</td>
<td>**</td>
<td>*</td>
<td>*</td>
</tr>
<tr>
<td>衣服の世話をする</td>
<td>*</td>
<td>*</td>
<td>*</td>
</tr>
<tr>
<td>家事をする</td>
<td>*</td>
<td>*</td>
<td>*</td>
</tr>
<tr>
<td>入浴する</td>
<td>*</td>
<td>*</td>
<td>*</td>
</tr>
<tr>
<td>夜、同じ部屋で寝る</td>
<td>*</td>
<td>*</td>
<td>*</td>
</tr>
<tr>
<td>勉強を教えたり、本を読んだりする</td>
<td>**</td>
<td>*</td>
<td>*</td>
</tr>
<tr>
<td>テレビを見る</td>
<td>*</td>
<td>*</td>
<td>*</td>
</tr>
<tr>
<td>音楽を聴く</td>
<td>*</td>
<td>*</td>
<td>*</td>
</tr>
<tr>
<td>室内ゲームやおもちゃなどで遊ぶ</td>
<td>**</td>
<td>*</td>
<td>*</td>
</tr>
<tr>
<td>工作やモン作りをする</td>
<td>*</td>
<td>*</td>
<td>*</td>
</tr>
<tr>
<td>家の手入れや掃除をする</td>
<td>*</td>
<td>*</td>
<td>*</td>
</tr>
<tr>
<td>ガラスふきや風呂そうじをする</td>
<td>*</td>
<td>*</td>
<td>*</td>
</tr>
<tr>
<td>買い物に行く</td>
<td>*</td>
<td>*</td>
<td>*</td>
</tr>
<tr>
<td>散歩したり、公園などで遊ぶ</td>
<td>*</td>
<td>*</td>
<td>*</td>
</tr>
<tr>
<td>スポーツをする</td>
<td>*</td>
<td>*</td>
<td>*</td>
</tr>
<tr>
<td>その他</td>
<td>*</td>
<td>*</td>
<td>*</td>
</tr>
</tbody>
</table>

（注）親の評価による「子どもに対する理解度」と「親子の共同行動」の関係をみた。

*の数は、関係の強さを示す。

***は非常に強い関係を示す（統計的検定にて0.1％水準で有意）。

**は強い関係を示す（統計的検定にて1％水準で有意）。

*は関係があることを示す（統計的検定にて5％水準で有意）。

(2) 子どもに対する理解度に影響を及ぼすもの

先に、親子の共同行動や接触時間との関係をみたが、こうした直接接触を通じて子どもの気持ちを推測することはある意味で当然である。しかしこうした要因以外にも、「子どもに対する理解度」に影響を及ぼすものはないだろうか。

ここでは親の調査票（調査票B）の中から理解度と関係すると予想される幾つかの変数を取りだし、回帰分析を行って、理解度への影響を分析した。用いた変数は「子どもの育て方（Q5-abcd）」「自分の子どもに関する評価（Q10）」「子育てに伴う感情（Q12-ab）」「家庭生活への満足度（Q14）」であり、これらに先の「親子の共同行動の数（Q1）」と「親子の接触時間（Q2）」を加えた。
第四章 調査結果の分析

標準偏回帰係数を表IV－2－5に示した。全体としてはやはり、共同行動の数や接触時間など子供との接触量が、こうした理解度の裏付けとなっていることがわかる。ただ、親自身の「子どもの育て方」に関する考えの影響も見られた。父親では、子どもの自己動性を重んじる方が、そしてまた「男らしく、女らしく」という性格特徴に同意する方が、理解度が高いと自己評価している。性役割規範との関係は母親にも見られた。また一方母親においては、子育てに伴う感情や家庭生活への満足度の影響もみられた。

表IV－2－5 「子供に対する理解度」に影響を及ぼす要因

<table>
<thead>
<tr>
<th>影響要因</th>
<th>全 体</th>
<th>父 亲</th>
<th>母 亲</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>親子の共同行動の数（B－Q1）</td>
<td>0.188 ***</td>
<td>0.228 ***</td>
<td>0.142 **</td>
</tr>
<tr>
<td>親子の接触時間（B－Q2）</td>
<td>0.202 ***</td>
<td>0.164 **</td>
<td>0.09 *</td>
</tr>
<tr>
<td>嚴しいしつけ（B－Q5a）</td>
<td>-0.003</td>
<td>0.001</td>
<td>0.008</td>
</tr>
<tr>
<td>自主性尊重（B－Q5b）</td>
<td>0.105 ***</td>
<td>0.156 ***</td>
<td>0.046</td>
</tr>
<tr>
<td>男・女らしく（B－Q5c）</td>
<td>0.08 *</td>
<td>0.125 *</td>
<td>0.102 *</td>
</tr>
<tr>
<td>嬰父慈母（B－Q5d）</td>
<td>-0.08 *</td>
<td>-0.088</td>
<td>-0.084</td>
</tr>
<tr>
<td>自分の子どもに関する評価（B－Q10）</td>
<td>0.056</td>
<td>0.086</td>
<td>0.057</td>
</tr>
<tr>
<td>子育て楽しい（B－Q12a）</td>
<td>0.051</td>
<td>0.034</td>
<td>0.097 *</td>
</tr>
<tr>
<td>子育て好き（B－Q12b）</td>
<td>-0.079 *</td>
<td>-0.086</td>
<td>-0.087 *</td>
</tr>
<tr>
<td>家庭生活への満足度（B－Q14）</td>
<td>0.06</td>
<td>0.035</td>
<td>0.095 *</td>
</tr>
</tbody>
</table>

決定係数 0.172 0.195 0.119

(注)＊の数は影響の程度を示す。

***は非常に強い影響を示す（統計的検定にて0.1％水準で有意）。

**は強い影響を示す（統計的検定にて1％水準で有意）。

*は影響があることを示す（統計的検定にて5％水準で有意）。

4 親子の理解度のギャップと子どもの家庭生活への満足度

(1) 親子の理解度のギャップ

子どもの気持ちを「分かってくれる」親と「分かっている」親は、一致しているのだろうか。親が、子どもの気持ちを分かっているつもりでも、子どもは分かっていないと思うこともままだらだろう。こうした親子の理解度のギャップをみていくこと。

前回の調査では、父親、母親とも親子の理解度の関係性が高かったが、特に母親の相関関係が高かった。つまり、母親の方が子どもに対する認知が正確だったといえる。今回も全く同様の結果で、子どもの「親の理解度（調査票A Q13 Q16）」と親の「子どもに対する理解度（調査票B Q3）」の関係をみたところ、親子間の理解度はそれなりに一致しているが、とくに母親において相関が高かった（図IV－2－4参照）。

しかし、今回は、子どもの性別に分けて、もう少し詳しく分析してみた。すると、父親と男の子の理